

試験片を一貫提供

神戸工業試験場 原子力・航空分野狙う
昭和製作所

神戸工業試験場（KMTL、兵庫県播磨町、鶴井昌徳社長）と昭和製作所（東京都大田区、舟久保利和社長）は、

試験片製作と受託試験サービスで業務提携した。昭和製作所の高精度の試験片加工技術と、KMTLの多様な試験分析技術を組み合わせる。試験片の国内市場は減少傾向にあるが、原子力や航空宇宙分野においては今後も高い伸びが見込まれる。両社で一貫提供することで顧客需要に即応する体制を整え、受注を拡大する。

KMTLは独立系の大手民間試験場。試験片は研究開発や評価において、素材や部品などの強度や機械性質を調べるのに用いる。提携を通じて、KMTLが持つ原子力・航空宇宙分野の案件で一部の試験片加工を昭和製作所が担う。増加する案件への対応力を高めるのが狙い。昭和製作所の顧客に対してはKMTLの受託試験サービスを紹介します。

昭和製作所は高精度品を短納期で製作する技術力を備える。一方で試験片による実試験は納入先が行うのが主だったが、人手不足などを背景に外部委託する案件が増えているという。KMTLは受託試験サービスを充実しており、昭和製作所の顧客にも提供するなど、相互に顧客提案をしていく。

また、技術交流も進める。原子力分野の試験片は、原子炉の型式によりそれぞれ得意とする技術が異なる。このため主流となる型式に合った技術を高めることで、需要に応える。

KMTLの受託試験の現場で昭和製作所社員の研修を行い、サービスの知識を深めて顧客提案に生かす。

第7次エネルギー基本計画に基づき、中長期で原子力発電所の新増設が予想される。航空宇宙分野では中型旅客機や防衛産業向けに今後、年率2ケタ成長が続くと見ている。これらの需要を取り込んでいく。